



閑静な空間に

学園長 小島 澄人

日曜日、仕事をしていると、物音ひとつしない、まさにこの世に一人だけの閑静な空間の中にいる。車の音も聞こえない。いつもなら、窓の外を見ると、100家族ぐらいが遊びに来る様子を時折眺めては仕事をする。今年は閑静な空間に身を置く一年でした。本当に世に誰もいない、誰の声もない、人の気配を感じない日が続きました。子どもたちはどこに行ったのか、先生たちは何をしているのだろう・・・、寂しさと虚しさに毎日身を置き、一日ぼんやり・・・。

『コロナ』の一年、けど子どもたちは本当に元気でした。自粛、自粛と不自由な中、子どもたちの笑顔とはしゃぐ姿が本当に毎日の光でした。今は各学年、園外保育、ジャガイモ植え、なわとび、ドッジボール、歌に製作と楽しんでいます。年長の子どもたちから、「お仕事、頑張ってるね」「大好きだよ」、いろいろなお手紙が届きます。いよいよ卒園の準備です。けどけど、今年度はまだまだ、まだまだです。もう一年ほしい。

保護者会も外でやったり、個別にお別れの対応になるかとは思いますが、保護者の皆様のご理解とご配慮、これがなければ幼稚園も開園できない状況でした。私の記憶の中に今年の子どもたちは残り続けるに違いない。この閑静な空間の中に、子どもたちが再び戻り大きな歓声と笑い声が聞こえてきそうです。誰もいない職員室より、「おーい、あそびにおいでよー」と、叫びたい。

幼稚園では卒園の準備、また新年度の準備がなされていますが、それを拒否したい気持ちです。今年度卒園する子どもたち、最後は思いっきり握手させてほしい。握手がしたかった。かなわぬなら、グータッチしたい。

畑にはジャガイモを植えています。土の中で春を待つ、春になると芽をだし、大きなジャガイモを実らせる。早くそんな春が来てほしい。木々も新芽が、世からはコロナもおさまってほしい、もう一年、春からやり直したい。

閑静な空間の中に、日曜日、一人でぼんやりと。

